

事例 32 「人にやさしいまちづくり」地域調査

DATA

場 所：福島県西白河郡矢吹町
 実 施 者：郡山国道工事事務所 地域づくり推進室 [TEL (024) 946-0333]
 参 加 者：福島県立光南高等学校1年生 88名、先生 4名
 郡山国道工事事務所職員 26名、矢吹町職員 8名
 協 力 者：福島県県南建設事務所
 実 施 日：平成11年12月9日、12月13日、12月16日、12月20日、平成12年2月14日、3月6日
 学 習 時 間：3時間

関係する分野



背景

「人にやさしいまちづくり」地域調査は、福島県立光南高等学校の総合学科ボランティア授業の中で、生徒自らが調査ルートや調査方法を立案したもので、通学路周辺のゴミ拾いを自ら行うことで奉仕活動の意義を再確認したり、また、道路沿線のゴミの分布や沿線住民への聞き取り調査を行って、ゴミのポイ捨て行為の原因や実態を検証し、改善策を考察していこうというものです。

内容

郡山国道工事事務所では、関係資料の提供や県・町と連携して「人にやさしいまちづくり地域調査」への共同参加と支援を行ったほか、道路管理の概要やゴミ処理の実態について、授業の中で生徒たちに説明を行うとともに、ポイ捨てゴミ問題をテーマに生徒との懇談会を実施しました。
 地域調査では、通学路周辺のゴミ拾いを体験するとともに、道路沿線のゴミの分布調査や沿線住民への聞き取り調査を実施し、ポイ捨てゴミの実態や対策について生徒自らの考えを報告書として取りまとめました。

① 「地域調査」(現地調査)への参加(平成11年12月9日、13日)

参加者:光南高校1年生徒88人、郡山国道職員26人、町職員8人

② ボランティア授業への参加(平成11年12月16日、20日)

職員が授業に参加し、「道路管理の仕組みやゴミ処理の実体」を説明

③ 地域調査結果発表会(授業)への参加(平成12年2月14日)

④ 生徒との懇談会の開催(平成12年3月6日)
 ※地域調査の結果報告、ポイ捨てゴミに関する生徒の(改善策等)意見



自分の足で歩き、自分の目で確かめる



「道路管理のしくみやゴミ処理の実態」について話を聞く



ポイ捨てをなくすにはどうしたらいいのか



調査の結果報告

ポイント

- 体験を通してのボランティア精神の育成と社会の一員としての意識の向上を図ります。
- 生徒自ら企画・立案・実行することで、知的探究心の向上が期待できます。

- 道路管理への住民参加への理解を得ます。
- 生徒たちがゴミを拾う姿を通じて、生徒の父兄や地域住民の環境保全に対する意識の向上を図ります。

成果

普段あまり知られていない道路管理について、また何気ない日常の中でできる環境保全活動について、生徒自らの体験を通じて理解を深めていただきました。生徒たちからも「多くの人が自分たちと同じように実際にゴミ拾いをすることで問題意識が生まれるのでは」という声が多くありました。また、生徒たちが自ら企画・立案・実行し学習する、従来の「授業」にはないシステムを取り入れることで、学ぶ喜びを実感してもらうことができました。

参加者の声

「予想以上のゴミの多さにびっくりした。この調査をしてみて、改めてゴミ問題の重要性を実感した。もっと多くの人が関心を持てばこの問題は解決すると思う。これ以上、矢吹町が汚れないように、心がけていきたい。」

「地域の人みんなで、一度ゴミ拾いをして、その辛さとゴミの多さを知れば、捨てる人は減っていくと思う。」

「駅やコンビニが近くにあって、たくさんのゴミが見られた。ゴミは多種多様で、家庭ゴミなどもあり、地域の人もっと協力して欲しいと思った。」



調査結果は報告書に

自分たちで拾ったからこそ生まれた問題意識

地域住民にもインタビュー

次のステップに向けて

- 生徒のゴミ対策に関する意見・提案を今後実際の道路管理に生かしていくか、学校と地域、及び道路管理者との連携による社会実験など実現へ向けての学習も考えられます。
- 道路管理等、公共への幅広い住民参加についての学習も考えられます。